This is well characterized by its calyx tubes constricted below the middle part which has six longitudinal keels.

*　　*　　*　　*

1. **ヤエヤマカンアオイ**（新称） 琉球列島の石垣，西表両島だけに産するカンアオイで，葉だけ見ると奄美大島のフジノカンアオイを思わせるが，花は全く異っている。花は帯緑紫色で蕚片が波曲する点はヤクシマカンアオイに似ている。然し葉に白斑が出ないので直に区別出来る。花柱の形はアマギカンアオイに近い。

2. **ヒナカンアオイ**（新称） 沖縄島のカツウ岳の頂上付近に稀産し，葉は小さく長さ 5～6 cm で奄美大島のミヤビカンアオイを思わせる。花柱の形はダイリンアオイやサツマアオイに似ているが，花筒の先はくびれないのでダイリンアオイ節のものではない。

3. **オニカンアオイ**（新称） 屋久島の南西部の仲間川やモッチョン岳の上部などに見られる非常に変ったカンアオイである。葉は長さ 10～15 cm で大きく，ヤクシマカンアオイのように白斑は出ない。花は大輪で径 4～5 cm もあり，色は淡黄色で蕚裂片の上面には，全面に長さ 0.5～1 mm 位の紫色の粗毛を束生するのが特長である。

4. **ノマダケカンアオイ**（新称） 薩摩の野間岳の 9 合目付近に稀産するカンアオイで，葉は白斑があり上面に光沢がある。花柱の形はアマギカンアオイやタマノカンアオイなどに似ている。野間岳にはキンチャクアオイも産するが，同種とは葉の上表の光沢で区別出来る。

5. **ヒゴカンアオイ**（新称） 熊本の山城学氏が，熊本県下益城郡中央村の権現岳の頂上付近で採集され，筆者の所に生品を送って下さったものである。本種はキンチャクアオイ群とランヨウアオイ群の中間にあるもので，花柱の形は後者に，花筒の形は前者に近いが，下から 1/3 位の所でくびれ 6 個の縦稜を有するのが特徴である。

○地衣類思い出話 (10) (富樫　誠) Makoto Togashi: Miscellaneous notes on lichens or lichenological survey (10)

昭和 27 年 4 月春も漸く酣になった頃，朝比奈先生の三島別荘に滞在し毎日近辺をあさって居たが，或日先生と当時の助手岸（佐々門）富子さんと三人で，御殿場郊外の東山へ通う道路に沿う或る大きな神社の境内にあった杉の巨木に群生して居た葉状地衣を根こそぎ採集したことがある。先生はこれを新種として *Cetraria Togashii* と命名された。あとで先生のハーバリウムをよく調べたら，これと同種の標本が日光，白根山産July 1924, 緒方正資氏のと日光湯元，兎島産 27. VII. 1930, 橋本亮氏の採集品が何れも別の誤った名称で入て居たので，此の年の秋先生と同伴して日光湯元に行き，多量の標本を採集することができた。